

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	園芸療法論 [Horticultural Therapy]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	218510	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	林 典生				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP3(1) DP3(3)	
授業概要	<p>医療・保健・福祉・生涯学習の現場で、園芸療法・福祉の実践を行ってきた経験に基づいて、幅広い教養と専門性を持ち、一緒に問題解決を行える人材を育てるために必要な以下の内容の講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 園芸療法とはガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを目的としていること。</li> <li>2. その目的を達成するためには、子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わずに活動実践を行うことが必要であり、対象となる人々の理解やそれを取り巻く環境および支える制度等を理解した上で、実践できること。</li> <li>3. これらの人に関わることを理解した上で、ガーデニング活動も含む園芸活動を行う上で注意すべき点等も含めた活動の流れを理解した上で、活動打ち合わせ・準備から片付け・振り返りまで実施出来ること。</li> <li>4. 実際にガーデニング活動も含めた園芸活動を地域社会で実践して、参加者からの反応や受講生同士の振り返りの中で、客観的に自己評価できること。</li> </ol> <p>【知識・理解の活用】、【汎用的技能探求能力】 * 近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務(社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて)やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて実習内容を改良を行っている。</p>						
関連する科目	園芸療法実習を履修する場合は履修すること						
授業の進め方と方法	授業開始前に毎回のレポートを提出した後、授業開始後10分間は授業開始前の小テストを実施する。その後授業開始前の小テスト、毎回のレポートならびに前回の授業終了後の小テストの解説を授業内容と関連付けて行う。授業を実施し、授業終了10分前に次回提出するレポート課題を説明し、授業終了後の小テストを実施する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 園芸療法とは何か 実践を踏まえて紹介</li> <li>2. 日本における園芸療法等の取り組み実践紹介を行う。</li> <li>3. 活動現場で実践する上で注意する点 利用者本位に関する理解</li> <li>4. 活動現場で行う上での注意点について説明を行う。</li> <li>5. 子どもの園芸療法 重度重複しょうがいも含む発達しょうがい児を事例に</li> <li>6. 子ども家庭支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>7. しょうがい者の園芸療法 精神しょうがい当事者活動を事例に</li> <li>8. しょうがい者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>9. 高齢者の園芸療法 認知症高齢者のケアを事例に</li> <li>10. 高齢者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>11. 地域社会の園芸療法 高齢者・子育てサロン活動を事例に</li> <li>12. 地域福祉分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>13. 生活困窮者の園芸療法 子どもの貧困等を事例に</li> <li>14. 生活困窮者支援における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>15. 園芸療法の全体的な流れ 特別支援教育での活動を事例に</li> <li>16. 園芸療法プログラム作成・実施に関する説明を行う。</li> <li>17. コミュニケーション しょうがい者支援機関におけるソーシャルスキルトレーニングを事例に</li> <li>18. 園芸療法活動に必要なコミュニケーションに関する説明を行う。</li> <li>19. 構造化 自閉性しょうがい児の支援機関の取り組みを事例に</li> <li>20. 園芸療法活動に必要なマネジメントに関する説明を行う。</li> <li>21. 学校と園芸療法 各地域の取り組みを紹介しながら</li> <li>22. 若者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</li> <li>23. 刑余者支援と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら</li> <li>24. 司法分野における園芸療法実践に関する取り組みの説明を行う。</li> <li>25. 多文化共生と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら</li> <li>26. 多文化共生分野における園芸療法実践に関する取り組みを紹介を行う。</li> <li>27. 災害支援と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら</li> <li>28. 災害支援分野における園芸療法実践に関する取り組み紹介を行う。</li> <li>29. 園芸療法のトピックス 地域共生社会づくり・農福連携と園芸療法との関連性について</li> <li>30. 地域共生社会づくり・農福連携に関する取り組み紹介を行う。</li> </ol>						
授業の到達目標	子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わず誰もがガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを理解できていること。						
授業時間外の学修	毎回の授業終了時に、事前に課題を提出するので、まとめたレポートを作成すること(目安時間は30分以内)。また、授業終了後に授業内容に関する課題を提出するので、それを調査し考えたことをまとめたレポートを作成する(目安時間は30分以内)。						
課題に対するフィードバック	毎回の小テストおよびレポートは各授業中に解説を実施するとともに、テストはテスト終了後に解説を実施するとともに資料を配布する。				評価方法	授業開始前後の小テスト 15回×2点 計30点 毎回のレポート 15回×3点 計45点 テスト 計25点 合計100点で成績評価を行う なお、遅刻・早退や激しい私語等授業態度が悪い場合は本人に伝えた上で減点する。	
テキスト	園芸療法論テキスト(担当教員が毎回作成し、配布する)						
参考書	国民の福祉と介護の動向 2020/2021 あるいは 2021/2022 厚生労働統計協会 Horticulture as Therapy: Principles and Practice 1998 Sharon Simson, Martha Straus CRC Press (都城キャンパス図書館に所蔵あり)						
備考							